

茶安別放牧酪農研究会

研究会の概要

所在地	川上郡標茶町
設立	平成 19 年
構成員	酪農家 8 戸
活動概要	草地畜産整備事業による電気牧柵導入補助を機に、当時標茶町では初となる放牧研究会を設立。
飼養形態	年に 1 ～ 2 回の勉強会や視察研修を開催しているほか、会員同士で互いの圃場の電気牧柵や牧道整備の作業補助を行っている。 平成 26 年に会員全戸が、日本草地畜産種子協会により放牧畜産実践牧場に認証された（A14-03～10）。

研究会の特徴

標茶町茶安別地区は、平坦な農地が少ないため、地形的要因から放牧酪農を志向する傾向にある。

ただし、会員によって所有する圃場の面積や放牧環境が異なるため、共有の方向性をもって活動するのではなく、各々が自身の経営に活かすことのできる情報を交換し合うといった活動を行っている。

しかし、他の会員の農場見学を通じて日中放牧から昼夜放牧に転換した会員もあり、研究会活動が与える効果を窺い知ることができる。

研究会のモットーは、それぞれが酪農経営と生活においてトータルでメリットが享受できる、持続可能な楽しい放牧酪農。

研究会で実施している勉強会や視察研修には、夫婦や家族ぐるみで参加する会員が多く、会員間の交流や地域の結束力を高める場となっている。

最近では、放牧酪農を志向する新規就農者が増えており、会員農家への見学・研修も増加傾向にある。放牧酪農の更なる展開や技術向上にも繋がるので、特別会員としての研究会受入も検討している。

長坂牧場（茶安別放牧酪農研究会 会長）

経営概要

所在地	川上郡標茶町
家族構成	本人、妻、子供3人、父、母
経営面積	86ha（放牧地 21ha、採草地 65ha）
飼養頭数	120 頭（経産牛 80 頭、育成牛 40 頭）
飼養形態	コンポストバーン牛舎
生産乳量（出荷乳量）	500t/年
1 頭当たり平均年間乳量	6,700kg
放牧類型	中小牧区、昼夜放牧
放牧期間	5月上旬～11月（降雪するまで）
圃場植生	放牧地 オーチャードグラス・ペレニアルライグラス主体



平成 28 年からチーズ工房を稼働



放牧地から戻る牛たち

長坂牧場は、現経営主である浩行氏の父の代で青刈牧草給与から放牧に転換した。放牧期と舎飼い期での、牛が置かれる環境の違いを最小限にするために、平成 22 年からコンポストバーンを導入した。蹄病が減少するなど牛を健康に飼うことができるようになり、メリットを感じているとのこと。

搾乳室は地熱交換システムを利用した造りとなっており、夏季は冷涼・冬季は温暖な作業環境が保たれている。

平成 28 年から牛舎に隣接したチーズ工房を稼働しており、6 次産業化も実践している。近隣 10 戸の酪農家で追播機利用組合を組織し、草地の改善に取り組んでいる。

<放牧畜産基準認証取得 (A11-07)>

取材日：平成 29 年 8 月 9 日

連絡先：釧路農業改良普及センター

電話：015-485-2514